

「青森市財政プラン（2019～2023）ローリング版」及び「令和5年度予算編成方針」の概要

青森市財政プラン（2019～2023）ローリング版

1 財政の健全性維持のための「ローリング版」

◇ 国等の制度改正や毎年度の決算状況を踏まえ、「青森市財政プラン（2019～2023）」のローリングを実施。

2 R4 末 財源調整の「基金」50億円確保 ⇒ R8 末 財源調整の「基金」60億円確保

◇ 財源調整のための基金について、国・県及び本市の経済対策により経済の落ち込みが抑えられ、市税等の収入が堅調であったことや、除排雪費用に対する国からの財政支援等により、R4 年度末で50億円を確保。しかしながら、昨冬の除排雪費用に約59億円を要したことなどを踏まえ、引き続き行財政改革に取り組み、R8 年度末の基金残高を60億円確保。

3 R8 末「市債残高」の大幅縮減 △256億円

◇ 引き続き市債発行額の抑制に努め、H30年度決算と比較して、R4 年度末市債残高（臨時財政対策債を除く）は115億円（872→757億円）を縮減。R8 年度末では256億円（872→616億円）の縮減。

予算編成方針

1 予算編成の方向性

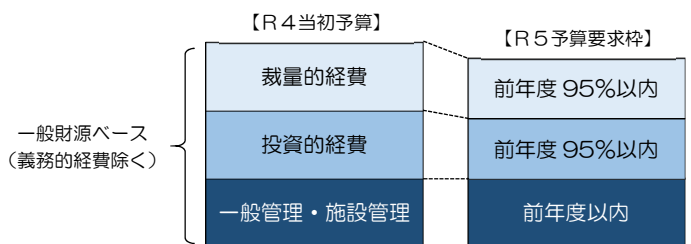
◇ 国が示す経済展望などから、歳入の根幹となる市税収入の大きな伸びは期待できないことから、国や県の交付金の活用など歳入確保に努めるとともに、歳出全般についても不断の見直しにより財源捻出を図っていかねばならない。

◇ 急速な少子高齢化に歯止めをかけるため、次世代を担う子育て世代を地域で支える仕組みづくりが急務であり、物価高騰による学校給食費への影響等が懸念されることから、令和4年10月より学校給食を無償化し、令和5年度以降も行財政改革と学校給食費無償化の両立にチャレンジしていく。

2 シーリングによる財源対策と施策の硬直化の抑制

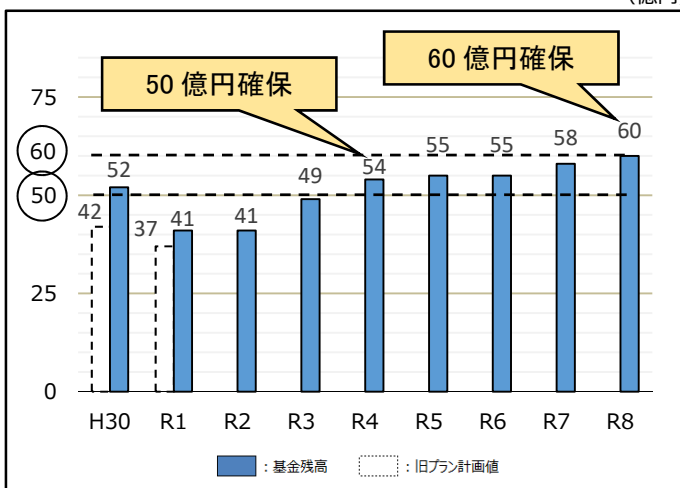
- ◇ 裁量的経費・投資的経費の抑制率を5%とする。
- ◇ 投資的経費のうち市民生活密着分^{*}は前年度以内。

※道路の舗装・側溝、市営住宅及び公園遊具等の修繕など



【グラフ①】財源調整のための基金残高の推移

(億円)



【グラフ②】市債残高の推移

(億円)

